

令和二年度 学校関係者評価資料

武蔵野栄養専門学校 自己評価報告書

基準項目ごとの学校関係者評価

基準1 教育理念・目的・育成人材像等		
<p>【現状と課題】</p>	<p>後藤学園の教育理念は、「身体で覚えた技術は一生を貫く」「優れたプロは優れた人格を有する」である。</p> <p>教職員の教育理念に対する認識度は高いが、学生への周知度はまだ十分とは言えない。周知方法も含めて検討し、学生に伝達していく必要がある。</p> <p>学校目標を「人格教育と実践的な職業教育により、社会に有為な栄養士を育成する」と定めている。学校目標の実現のためにも、栄養士としての専門的な知識・技術を身に付け社会に貢献するだけでなく、社会人としての礼儀やマナー、コミュニケーション能力や課題解決力も合わせて育成していくことが責務である。</p>	
<p>【改善のための方策】</p>	<p>学生や保護者・関連業界に対して本校の教育理念を周知するためには、HPの存在についてより周知徹底を図る必要がある。</p> <p>また、社会の要請に対して理念を的確に対応させるためには、社会が求める人材像を明確にし、それに必要な知識・技術を習得させることが重要である。業界のニーズを常に把握しカリキュラムを検討していくため、学内にはカリキュラム検討委員会を組織し取り組んでいく。</p> <p>学内に若手の教職員を中心とした将来構想委員会を組織し、学校の未来を考え教育の充実や学生募集につながる内容の検討を継続して行っていく。</p> <p>多様化する栄養士のニーズに合った授業を展開するため、入学者の興味関心を重視した選択コースの開講により教育の充実を図る。令和3年度は選択コースに「スポーツ栄養コース」を加えて企業とコラボレーションした実践的で魅力ある授業を展開していく。</p>	
<p>【関係者評価】</p>	<p>学生や保護者・関連業界に対する教育理念の周知とともに、若手教職員を中心とした将来構想委員会の活動に期待します。</p>	
<p>【4段階評価】</p> <p>適切である 課題がある</p> <p style="text-align: center;">4 3 2 1</p>		<p>【評価平均点】</p> <p style="text-align: center;">4.0</p>

基準 2 学校運営	
<p>【現状と課題】</p>	<p>令和 2 年度は「学校運営組織を新たに編成し、スムーズで効率的な業務体制を構築する」「チャイム授業開始を徹底するなど、メリハリのある授業内容を実行する」の 2 点をスローガンに掲げた。1 つ目は全教職員をこれまでの「教務課」「実習実験課」の職務に加え、「教育管理」「学生支援」「募集情報」「進路開発」の分掌に分け、組織的な学校運営を構築するとともに、創意工夫のある学校づくりを目指した。</p> <p>2 つ目は学生がより積極的に授業に取り組み、栄養士として実力をつけるよう、①チャイム授業の徹底、②ショートホームルームの励行、③アクティブラーニングの導入、④定期考査マークシート方式への変更を行い、授業改善の起爆剤とした。</p> <p>令和 2 年度はコロナ禍の中、学校運営に様々な制約が生じた。自粛期間中はオンデマンドによる授業を開講、授業開始後は感染対策を十分に取り、教育の質を落とすことのないよう教職員が一丸となって取り組んだ。</p>
<p>【改善のための方策】</p>	<p>業務分掌での組織化を図り、役割は明確化したが、組織を変更した初年度であり混乱も見られたため、引き続き分掌ごとの業務運営に取り組んでいく。</p> <p>学園の将来的なビジョンを実現するため、令和 2 年度より 5 年間の中期計画を策定、中期計画をもとに学校の目的・目標を達成するための事業計画を定めており、今後もこの事業計画に沿った学校運営を実施していく。</p>
<p>【関係者評価】</p>	<p>コロナ禍にも関わらず、大変な労力を必要とする学校運営組織の改編に取り組まれたことは大いに評価されます。新たな事業計画の実施とともに今後の期待されます。</p>
<p>【4 段階評価】</p> <p>適切である</p> <p>4 3 2 1</p> <p>課題がある</p>	<p>【評価平均点】</p> <p>4.0</p>

基準3 教育活動		
<p>【現状と課題】</p>	<p>実践かつ専門的な職業教育を実施するために、企業等との連携を通じて必要な情報の収集・把握・分析を行い、教育課程の編成に活かすようにしている。社会の状況や業界のニーズにも対応するため、2年次に開講している選択コースに「スポーツ栄養コース」を令和2年度に新設、3年度から開講をすることが決定している。</p> <p>職業実践専門課程の認定条件である企業等と連携した実習・演習については、例年「校外実習」「大量調理実習」「調理理論実習」にて実務能力の習得に努めているが、令和2年度は新型コロナウイルス感染症の影響により実施することができなかった。</p> <p>学力不足による学習意欲の低下や退学防止を目的として1年生前期に「基礎学力演習」を実施、基礎学力の向上に努め、学生全体の学力の底上げを図っている。</p>	
<p>【改善のための方策】</p>	<p>コロナ禍により企業等との連携やキャリア教育を例年通り実施することができなかった。校外実習においては、実習施設の確保が困難となり学内代替履修となったが、例年と修学に差が生じぬよう、分散して代替授業を行った。受託会社の栄養士（保育所、事業所、病院）を複数回招き、栄養士として必要な知識及び技能を修得できるよう努めた。</p> <p>選択コースにおいても企業関係者による授業を実施することができなかったが、病院・福祉栄養実習では高齢者施設に在職している管理栄養士に講師を依頼しているため、対面授業とオンライン授業を併用しながら修学に努めることができた。令和3年度は感染状況を鑑みながら、安全に配慮をして実施していきたい。</p> <p>保育・学校給食管理実習においては企業等と連携した授業を取り入れることができていない。教育の公平性を図るためにも、今後はこの科目での企業との連携と同時に、他科目でも可能性を探るべきである。</p>	
<p>【関係者評価】</p>	<p>コロナ禍のため、企業連携等の実習が実現しない中でも、オンライン等の代替授業の実施で生徒の学力定着に取り組まれたことを評価します。</p>	
<p>【4段階評価】</p> <p>適切である 課題がある</p> <p style="text-align: center;">4 3 2 1</p>		<p>【評価平均点】</p> <p style="text-align: center;">3.7</p>

